

## ふれあい通信



菅野 さち子 ●仲町出身  
●東京支部

### 三丁目の夕日

私は昭和28年5月の春、暖かい日に小野町に生を受けました。当時両親は精米所を営んでおり、私が10歳の時に製麺所を立ち上げました。一からのスタートだったので、大変な苦労があったのではないかと思います。

物心ついた昭和の30年は漫画の「三丁目の夕日」にもあるように、物はなくとも将来に大きな希望を持ちながら、隣近所が支え合いつつましく生活していたように思います。

幼い頃の思い出にあるのは、近所を流れる夏井川でパンツ一枚の姿で、友達と一緒に遊んだり、

メダカを見つけるとは、綿の日本手ぬぐいですくってみたり。

あの透き通った清らかな川の流れを昨日のように思い出すことができます。

また近所の家の広い空き地などで石けりやかくれんぼをして遅くまで遊んだりしました。今となってはずいぶん昔の懐かしい思い出です。

当時は鉄興社の工場があって、田舎町にしては住民の意識も高く、プライドを持ちながら生活していたように思います。

あれから何十年が過ぎたでしょう、最近はなるべく数えることを避けていますが、実家に帰るたびに感じるの町は元気が少し弱くなっているように思うのは私だけでしょうか。

変わらないのは周りの素朴な美しい自然の姿。特に春は、夏井川の川岸に並ぶ桜並木、道から見える鮮やかな黄色の景色など、自然に囲まれた小野町の自然環境の美しさは町の財産です。

遠くにそびえる矢大臣山、高柴山、一盃山、町指定天然記念物の「東堂山の杉並木」や重要文化財である「東堂山鐘楼」など、小野町には探してみるとたくさんの誇れるものがあります。

これからも小野町らしさを大切に国内外の人たちにその魅力を知ってもらい、多くの人たちが小野町を訪れるように、人と人との交流においても町が元気になってほしいと願っています。町を離れていても私たちはいつでも小野町を応援し、愛しています。

## 地域包括支援センターからのお知らせ

### 認知症サポーター養成講座を行いました

「認知症サポーター養成講座」が6月20日、役場分庁舎講堂で行われました。

講座では、地域包括支援センター職員がスライドやテキストを用い認知症に関する基礎的な知識や対応方法について説明を行い、参加者同士によるグループディスカッションで、認知症に関するイメージや認知症の方が住みやすい地域にしていくためにはどんなことができるかなどの意見交換を行い、認知症への知識を深めていました。

講義終了後には認知症サポーターとしての証「オレンジリング」を配布しました。参加した方からは「認知症について勉強になった」「またこのような講座を開催してほしい」「今後、自宅や職場で対応方法について生かしていきたい」との意見が挙げられました。



講座の様子

地域包括支援センターでは地域住民や企業、学校を対象に「認知症サポーター養成講座」を開催しています。講座についてご要望がある方は地域包括支援センターまでお気軽にご連絡ください。

☎小野町地域包括支援センター ☎72-2128